



川崎市役所で「患者と家族の命を助け」を掲げる市民連合会主催の抗議行動

## 市ぜん息医療費助成廃止案

# 「患者の命綱切るな」

## 市役所前 市民ら130人抗議行動

川崎市独自の「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給事業」を来年3月末に廃止する案が市議会に提案されたことを受け、患者や市民らが16日、市役所前で制度の廃止を求めた。参加者が出されてから初めての大規模な抗議行動で、昨冬からの過去4回で最多の約百三十人が参加。「福田市長市長は、患者の命綱を切るな」と訴えた。

(竹谷優子)

「命に関わる病気にかかっているのに、助成制度は廃止は本当に許せない」。市内を走る東名高速道路近くに住む、五十歳以上のぜん息患者ら五十人ほど

が、市役所前をパレードした。抗議行動は、市民連合会主催の女性を中心とした。抗議行動は、市民連合会主催の女性を中心とした。抗議行動は、市民連合会主催の女性を中心とした。

「この日、抗議行動を主催した市民団体「川崎公衆衛生者と家族の会」などは、福田市長に対して制度の廃止を求め、市民の命を助けるために求める申し入れ書を市議会に提出。市議会の各会派も同じ、制度の廃止を求めた。同会の大塚幸太郎事務局長は「制度を廃止するといふ福田市長は、命の綱をどう切っていくのか」と訴えた。